

令和2年度事業報告

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

【概況】

当法人は、昭和39年1月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。

本年度も禅文化の普及に努め、公益目的事業では以下の活動を行なったが、コロナ禍により大きな制限を受けた一年であった。

調査研究活動では、中国禅宗史・禅語録研究班をはじめ各研究班は、学内の施設利用指針により一部の研究班を除き休会となった。

資料収集・資料公開活動では、禅宗寺院が所蔵する文化財を電子データとして記録し保存するデジタルアーカイブス事業を公開するべき時期に達しており、公開のためのシステム構築に向け着手し、また寺院所蔵の宝物調査も継続して進んでいる。令和2年度は滋賀県瓦屋寺、建仁寺塔頭両足院、飯山正受庵の悉皆調査を完了。大本山南禅寺、熊本県見性寺の調査継続と、新たに大徳寺塔頭の玉林院の悉皆調査も開始した。特別展覧会は、予定した「両足院」展が中止となった。

広報・普及活動では、様々なメディアを利用して禅文化の普及に努めた。書籍等の刊行として『童謡 禅のこころを歌う』、『維摩経ファンタジー』、『2021年禅語こよみ』などを刊行した。

収益事業では、宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売やサポート、臨済宗や他宗派の宗務所管理システムの機能追加への対応や保守サービスなどを行なった。

共益事業では、臨黄合議所関連の業務をはじめ各派宗務本所や寺院からの委託出版などを行なった。

－目次－

I. 禅文化普及事業（公益目的事業）

〈1〉 調査・研究活動	2
〈2〉 資料収集・資料公開活動	4
〈3〉 広報・普及活動	6

II. 収益・共益等事業

〈1〉 ソフト開発・販売等事業	8
〈2〉 共益事業	9

財務諸表	11～21
------	-------

I. 禅文化普及事業(公益目的事業)

〈1〉調査・研究活動

1. 中国禅宗史・禅語録研究班

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行なわれている。

① 唐代語録(『祖堂集』)研究会〔班長 西口芳男〕

『祖堂集』は『景德伝灯録』の編集に先立つこと52年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、とみに注目を集めている。既に50年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』(国際禅学研究所報告第8冊、2003年)として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

『禅文化研究所紀要』第35号(2021年5月発行予定)に「『祖堂集』卷10 譯注(三) 鏡清和尚章(二)」を原稿化して提出した。

今年度は卷十一の惟勁禅師章(全五則)の第三則より読み始め、越山鑒眞大師章(全三則)、睡龍和尚章(全十五則)の第十四則までの計二十則を読み進んだ。コロナ禍により研究会は後期よりの開催となった。2020年10/9、10/23、11/13、11/27、12/11、2021年1/22、2/12、2/26、3/12。

講師：衣川賢次(花園大学教授)

参加者：川島常明(大通院住職)／松岡由香子(山水庵庵主)／久保讓(禅文化研究所研究員)／鈴木洋保(花園大学非常勤講師)／鈴木史己(南山大学講師)／土屋昌明(専修大学教授)／藤田和敏(相国寺寺史編纂室研究員)／陳菲(花園大学修士前期課程：中国留学生：法名空慧)／羅旌超(花園大学大学院：中国留学生：法名道悟)／王珂(花園大学修士前期課程、留学生)／葛研(花園大学修士前期課程、留学生)／吉本えみり(ヤスイキヨシ事務所)

② 「神会語録」研究会〔班長 西口芳男〕

敦煌写本禅宗文献の中で最も重要なものの一つに神会関係のものがある。神会の語録の校訂本には、つとに、胡適氏、鈴木大拙氏のものがあるが、敦煌博物館本やいくつか

の断片写本が出揃うと、従来の校定には限界のあることがわかり、新たな定本、正確な訳文、詳細な注釈の作成が待たれていた。本会ではこの点を重視した読解を進めてゆく。今年度は、休会となった。

③ 「景德伝灯録」研究会〔班長 西口芳男〕

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全30巻を、近年の日中両国の中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。

今年度は、コロナ禍により、開催できなかった。

④ 俗語言研究会〔担当 衣川賢次・西口芳男〕

平成5年～10年にかけて、日中の中国語学研究者に呼びかけて刊行した雑誌『俗語言研究』を中国四川大学が主（経費負担を含む）となって復刊する。禅宗研究の推進を目標とし、禅宗の言語、禅宗の歴史と思想、禅宗文献の研究を主題とする論文、書評等を掲載する。日本側は監修として参画。

『俗語言研究』第六號（復刊第一號）を2020年10月に発行した。論攷は以下の通り。

《趙州録》注釋（一）……衣川賢次／石屋清瑋の生平及相關人物……刑東風／禪宗文獻詞語訓釋相關問題再論……雷漢卿・李家傲／禪籍詞語“趁口”“逞口”及其同義詞語的意義和理據……王勇／禪籍“及”“去及”考正……李家傲／“勤巴子”考……王長林／“五洩”考……張子開／日本漢学的“讀原典”傳統（一）（二）……三浦國雄述、廖明飛譯／唐宋禪宗語録研究論文目錄稿……鈴木史己

2. 禅宗經典研究班

禅文献に関わる經典類のうち、これまで未開のものについて独自の研究を進めると共に、臨済宗で常用される經典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。

① 臨済宗經典研究〔班長 西村惠学〕

現代の臨済宗で常用されている經典について、その声明や経本を中心に整理し、現代人に受け入れやすいものを考え、一般に普及するような方策を考慮して制作する。

3. 哲学研究班〔幹事 森 哲郎〕

令和2年度の報告としては、三つの研究会とも、大蔵会、西田哲学研究会、西谷研究会、各々、開催予定しながらも、結果的にはコロナ禍のために、休会せざるを得なかった。今後、オンラインの会合等も、中心メンバーと協議中である。

4. 日本禅宗史・禅語録研究班

日本の伝統教団を形成した祖師たちの伝記や語録を体系的に整備し、現代的に解釈することを目的とする。班員は所員を中心としたメンバーで構成する。

① 江湖開山等語録研究〔担当 能仁晃道〕

臨済宗各派寺院の協力により、開山・中興開山等が残した語録類を整理し、訓注を行なう。本山以外の寺院に残る語録類の訓注は、殆どなされておらず、日本禅宗史上重要なものが多い。

今年度は、松島瑞巖寺の洞水東初禅師の語録の訓注を終了し、令和3年10月に瑞巖寺より書画類の図録と併せて発行。平林寺開山の『石室録』の訓注を終了しており、コロナ禍により令和3年10月に刊行延期となっている。また新たに、永源寺（滋賀県）の『一絲和尚語録』の訓注を開始した。

② 天龍寺史研究班〔担当 藤田琢司〕

大本山天龍寺の委託を受け平成28年度より発足。慶長6年（1601）以降の天龍寺関係史料を年代順に収める『天龍寺史』近世編の編纂作業を行う。今年度はコロナ禍により天龍寺の方針に従い全ての活動を休止した。

③ 『延宝伝灯録』研究〔担当 藤田琢司〕

日本の禅僧・居士ら約千人の伝記を、卍元師蛮が撰述した『延宝伝灯録』の訓注作業を行なう。本書は江戸時代までの日本禅僧の伝記の集大成として位置づけることができるが、歴史学の成果に加えて難解な禅語の知識が不可欠であったため、従来訓読等が刊行されたことはなかった。今年度は内容見直しのため休止とした。

5. マルチメディア研究班〔班長 西村恵学〕

印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究する。令和2年度には、禅のこころを生かしたミニ・カレンダーである「2021年禅語こよみ」（建仁寺派両足院所蔵品より）を刊行したほか、「童謡 禅のこころを歌う」「維摩経ファンタジー」などを刊行した。

昨年度にリリースしたLINEスタンプ「禅僧なむ その1」（¥120）は、をリリースし、現在までに約500ダウンロードされ売り上げ金額は約21000円。時間を見て、「禅僧なむ その2」の制作も計画していく。

〈2〉資料収集・資料公開活動

1. デジタルアーカイブス〔担当 西村恵学〕

禅の文化として大切に遺されてきた書画を中心としたアーカイブを、劣化しないデジタルデータとして保存していくことを目的とする事業。当初、7年を目途として活動してきたが、要望が多いため、今後も各地での調査を継続している。

令和3年度には蓄積した画像と資料に基づいて、「禅文化財WEB博物館“禅の至宝”」を公開することを計画し、そのシステム構築のために凸版印刷とニッシャの各担当者に説明を受けた。

① 「禅の至宝」（文化財目録整備事業）

各派本山や、文化財を多数所蔵する由緒寺院の宝物を、保存性や再現性に優れた電子データで記録し利用するための「デジタルアーカイブ 禅の至宝」を、23年度から運用

開始してきたが、また令和元年度末をもって、今まで利用してきたデジタルアーカイブス管理システム「WEB版 禅の至宝」のサーバー利用契約を解約したため、今後の新システム構築のために、凸版印刷やニッサとの打ち合わせを行なった。結果、当方の希望と予算規模に合致したため、ニッサのシステムを利用することに決定した。今後、担当者とシステム概要についてつめていき、令和3年度に運用開始できるように計画した。

また以前から行なっているアーカイブス構築のための調査についても、花園大学歴史博物館と強く連携して調査を継続し、調査後には専門分野の学芸員に依頼してそれらデータの目録情報を入力している。

令和2年度には、滋賀県の瓦屋寺（妙心寺派）、建仁寺塔頭両足院、飯山正受庵の悉皆調査を完了。大本山南禅寺、熊本県見性寺の悉皆調査を継続して行なった。新たに大徳寺塔頭の玉林院の悉皆調査も開始した。

また、両足院所蔵書籍のアーカイブスについても、年度末をもってほぼ完了した。

② 一般寺院什物データベース

①に連携するために優品を有する寺院所蔵の宝物のデジタルアーカイブ整備事業として、簡易なデータベースを内部で開発構築し販売しているが、上記の文化財目録整備事業における調査を行なった当該寺院に、このデータベースシステムの利用を促し、所蔵品のデジタル画像と目録のデータベース化を推奨し、データ入力を完了した状態で納品している。令和2年度は、東京麟祥院のデータ整理を完了し、八幡圓福寺のデータ、大本山方広寺のデータを継続整理中。

2. 資料の収集・整理・公開

① 資料室所蔵品の整理・公開（利用）

当法人がこれまで収集してきた文献資料と新たな購入や寄贈を受けた図書の整理を行なった。蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれており、これらの閲覧も、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放した。令和3年度よりオンラインで所蔵図書の検索が可能になるように、システムの検討に入った。

② WEB版所蔵墨跡展

当法人が所蔵する書画を、ホームページ上でバーチャル墨蹟展として随時公開中。

「特別展覧会」（花園大学歴史博物館と共催）

デジタルアーカイブス事業の成果として、禅宗寺院及び当法人が所蔵する書画を一般公開し、美術に関する講演を行なう墨蹟展を花園大学歴史博物館と共同で開催する。

令和2年4月2日から6月13日まで「両足院 いま開かれる秘蔵資料」展を花園大学歴史博物館で開催予定であったが、コロナ禍のため中止となった。秋に開催の見通しも立たず、令和2年度中には開催できなかった。令和3年度春期に開催できるか花園大学の方針をまって検討。

④ 黒豆データベース公開事業

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してき

たものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中で、随時、データファイルを追加する。今年度の追加登録はなし。

⑤ 問い合わせに関する回答

資料の出典や解説等について、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが数多く寄せられる。それらの回答に無料で応じた。文書で行なった回答には以下のような質問が寄せられた。

黄檗僧、妙幢淨慧が勧進に関わったとされる黄檗版一切経について／玉舟宗璠の墨蹟の解説／沢庵和尚が堺・南宗寺より喜蔵坊にあてた手紙の解説／月江正印墨跡について／虚堂の偈「求猫子」の読みと意味を知りたい／深草瑞光寺の元政『艸山集』閏之巻にある「寄了翁禅士書」について／赤穂義士の47墓に刻まれた戒名の由来／（以上個人）／頂相と肖像画2幅の賛の読みと現代語訳を教えてください／「臨濟禅師」のお位牌について／卸衣の表記について（以上寺院）／ほか、墨蹟や落款の読みなどを含め30件。その他電話による質問多数。

3. Wikipedia のデータ修正・登録事業

インターネット上の電子辞書サイト(Wikipedia)の、禅や禅文化に関係する部分を見直し、データの修正などを行なった。

〈3〉広報・普及活動

1. 季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は以下の号数を発行した。

- 256号 特集「建仁寺両足院とその文物」
- 257号 特集「生誕600年 画僧雪舟 その人間像」
- 258号 特集「350年遠諱 瑞巖寺第100世 洞水東初禅師」
- 259号 特集「コロナ禍の今を生きる 一禅からの提言」

主な配布先は寺院、一般、花園大学後援会など。購読会員数2,652名。

なお、243号より花園会館と南禅会館の客室に常備いただいている。

2. 研究成果の刊行

○禅宗経典研究班の成果

- ①【重版】 『禅門陀羅尼の世界』3刷 100部
- ②【重版】 『ナムカラタンノーの世界』3刷 200部

○マルチメディア研究班の成果

- ①2021年禅語こよみ 建仁寺派両足院所蔵品より (令和2年9月刊行)
初版42,000部 禅のこころを生かしたミニ・カレンダー。

- ②『季刊禅文化復刻版』Ⅳ～Ⅵ (令和2年10月刊行)
初版各100部 禅文化30号より54号までをオンデマンド印刷で復刻。
- ③『童謡 禅のこころを歌う』 重松宗育 (令和2年10月刊行)
初版1,500部 なつかしい童謡が誘う禅の世界。
- ④『維摩経ファンタジー』 西村恵信 (令和3年2月刊行)
初版1,500部 維摩居士が説く大乘仏教のボサツ道。
- ⑤【重版】 『一休道歌』3刷 1000部

3. 公開講義

① 「禅思想の諸問題」〔講師 西村恵信（花園大学名誉教授）〕

前所長による講義で、『臨濟録』（岩波文庫版）をテキストに一般社会人を対象に禅の基本思想を平易に教える。毎週火曜日開催を原則とし、今年度はコロナ禍のため学内が使えず、会場を京都駅前のキャンパスプラザ京都に移して22回開催した。約15名が参加。

② 「西谷『寒山詩』研究会」〔講師 清水大介（花園大学文学部元教授）〕

西谷啓治の著作『寒山詩』を禅的視点から捉え研究する。今年度はコロナ禍により休会した。

4. ホームページの運営とコンテンツの充実

① 禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの充実

ホームページのコンテンツ更新および連動している臨黄ネット御用達市場にある「禅文化研究所オンラインショップ」の商品登録などを行なった。

② 臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨濟禅を世界に発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制作を行なった。毎月更新している禅語の解説には、禅文化研究所発行の書籍から選出している。

5. 公開講演会等

① 公開講演会

「両足院—いま開かれる秘蔵資料—」展にあわせて2つの公開講演会を計画したが、コロナ禍により企画展中止のため未開催となった。

② 教化・運営の実践講座（サンガセミナー）

寺院の公益性が求められるなか、僧侶も一般の方も一緒になって学ぶ場として開講。令和2年度は、コロナ禍の蔓延防止対策を考へて、「禅美術鑑賞入門」「地獄絵解き講座」「腰痛改善のためのエクササイズ講座」「日々の花講座」「一眼レフデジカメ講座」の合計5つのzoomミーティングを使ったオンラインセミナーを計画したが、オンライン講座への抵抗もあったのか、実際には、「腰痛改善のためのエクササイズ講座」「日々の

花講座」の2講座は受講者が集まらず、開講できなかった。

6. 広報・普及

研究成果としての刊行物を、ダイレクトメールをはじめ、ブログ禅、メールマガジンの発行、あるいはTwitterやFacebookなどを利用して広範囲に普及を行なった。また新たに、公式のInstagramも設定し、禅語と写真をあわせて配信を始めた。今年度は、コロナ禍により寺院売店や美術館のショップなどの売上が軒並み減少した。

現在、売店等で頒布を依頼している本山・寺院は以下の通り（業者委託分含む）。
 妙心寺（花園会館）／建長寺／方広寺／永源寺／天龍寺／相国寺（承天閣美術館）／建仁寺／佛通寺／龍安寺（妙心）／鹿苑寺（相国）／慈照寺（相国）／神勝寺（広島・建仁）／酬恩庵（京田辺市・大徳）／東慶寺（鎌倉・円覚）／東京国立博物館／MIHO美術館（滋賀）／湯木美術館（大阪）

II. 収益・共益等事業

〈1〉ソフト開発・販売等事業

1. 宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。宗門を中心に仏教諸宗への販売促進。DM（ダイレクトメール）やネット上のアドワーズ広告等を行なった。最新のWindows10にも既に対応済み。

次期バージョンとなる「擔雪Ⅲ」開発の仕様策定を開始した。

2. オーダー型管理システムの構築

東福寺派管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートした。

妙心寺派布教師会管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートした。

妙心寺派白隠さんの会 会員管理システムの構築

構築済みシステムの運用をサポートした。

南禅寺派管理システムの運用サポート

システムの機能追加要望に対応した。

建長寺派管理システムの運用サポート

システムの機能追加要望に対応した。

曹洞宗京都府宗務所管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートした。

曹洞宗福井県宗務所管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートした。

天龍寺派管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートした。

佛通寺派管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートした。

真言宗神奈川宗務支所システム開発

システムの機能追加要望に対応した。

青蓮院管理システムの運用サポート

システムの機能追加要望に対応した。

藏春寺管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートした。

永保寺管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートした。

3. 宝物管理システム「禅の至宝」Windows 版の開発と販売

一般寺院がデジタルアーカイブデータを管理するための宝物管理システム「禅の至宝」Windows 版の開発を行ない発売中。

4. 出版物頒布

他社から委託を受けた禅関係の出版物をホームページやDMなどで案内し頒布した。
主な取扱い品：「日本の心 日暦」・「茶禅一如 日暦」・「干支色紙」（以上千真工芸）、「見てわかる仏事」（臨済宗青年僧の会）、「いろはにほへと」（大本山円覚寺）、「送喪儀」（連合各派布教師会）、「訓注 懶齋集」（平林寺）等。

〈2〉共益事業

1. 臨黄合議所事務局

○年間会議

令和2年 9月29日（火）理事会（東福寺派宗務本院）

令和2年 9月1日（火）教学部長会（東福寺派宗務本院）

令和3年 3月10日（水）理事会（花園会館）

○「臨黄会報」の発行（53号・54号）

○臨黄互助会の促進

○中国仏教界との交流（日中臨黄友好交流協会）

○会議等の事務処理

2. 寺院委託出版等

- ① 『人権ハンドブック』 妙心寺派宗務本所発行／令和2年3月
- ② 『大遠諱記録』『遠諱議事録』 大本山円覚寺発行／令和2年9月
- ③ 『坐禅会の手引き』 妙心寺派教化センター発行／令和2年11月
- ④ 『得庵禅師語録』 霊雲院発行／令和3年2月

その他、以下の編集業務を行なった。

『圓應録』 平林寺発行／令和3年4月刊行

『坐禅和讃講話（英語版）』 南太平洋友好協会発行／令和3年4月刊行

なお、黄梅院の『空花室日記』は令和2年度中に刊行が中止となり、編集費のみ受け取った。

3. 引導法語データベースの公開

妙心寺派教学部と共同で制作した臨黄ネット寺院会員サイト内にある「引導法語データベース（332法語）」を公開している。今年度は更新していない。